# 2011 年度　景観・デザイン委員会　第 1 回親委員会

## 議　事　要　旨

日時：2011 年 7 月 15 日（金）　17:00～19:30
会場：早稲田大学西早稲田キャンパス（旧大久保キャンパス）55S 号館 2 階 第四会議室
出席者（敬称略）：
＜委員＞天野委員長、宮脇新委員、屋代委員、石井委員、山下委員、上島委員、平野委員
＜委員兼幹事＞佐々木幹事長、大波新幹事、水谷新幹事、横山幹事、伊地知幹事、沖田幹事、
山口幹事、新屋幹事、丹羽旧幹事、二井旧幹事、上田幹事（連絡担当）

議題：
1　委員長挨拶（天野委員長）
2　新・旧委員および委員兼幹事紹介
3　各小委員会活動報告および今年度の活動について
4　会計関連・土木学会による委員会活動評価について
5　意見交換

資料：
・議事次第
・委員会構成メンバー表（平成 22 年度・平成 23 年度）
・資料 1　小委員会活動報告【論文集】
・資料 2　小委員会活動報告【研究発表会】
・資料 3　小委員会活動報告【デザイン賞】・デザイン賞の位置づけについて
・資料 4　デザイン賞 10 周年記念イベント状況
・資料 5　「景観研究を悩む」8 月 4 日実施のお知らせ
・資料 6　東日本大震災に関する委員会としての対応について
・資料 7　平成 22 年度会計報告、平成 23 年度予算計画
・資料 8　土木学会による委員会活動評価について

議事：

**１　委員長挨拶**

（天野委員長）親委員会・各小委員会については、過年度より継続した活動が十分行われており、心配していない。今年度は、東日本大震災に対して何らかの発信を行っていきたい。

**２　新・旧委員および委員兼幹事紹介**

（佐々木幹事長）親委員会には土木の景観分野を中心として建築・造園・歴史分野から加わってもらっている。加えて、国土交通省の景観関係の方に入ってもらっている。また、幹事は主に若い方で委員と兼務し、雑務をお願いしている。小委員会はデザイン賞、研究発表会でそれぞれ活動している。また、論文集は昨年度本委員会から移行し、学会直付けの委員会となったが、土木学会論文集 D1 部門として景観関連の論文集を担当し、活動している。
親委員会は実質２回程度しか開催できないが、随時活動についてメール審議などしていく。

・各委員自己紹介

**３　各小委員会活動報告および今年度の活動について**

【論文集関連（山下委員より報告）】
・資料に基づき昨年度の報告がされた。
・福井先生の後任として横松先生に委員を依頼した。
・投稿に対し、登載が少ない状況。
・調査研究部門しか投稿が来ていないことも課題である。
・論文集の分冊ごとに発信することになっている、土木学会 100 周年記念企画の東日本大震災の「報告」は、平野先生に担当を依頼したい。

（佐々木幹事長）　投稿の呼びかけが必要である。

【土木学会賞等の委員会からの推薦について（山下委員より提案）】
・資料に基づき推薦の流れ案が提案された。
（佐々木幹事長）論文賞の推薦について、例年１２月の景観・デザイン発表会で審議をしてきていたが、昨年からスケジュールが早まったことを受けて、改めてルールを決めておきたい。土木史研究論文集からの推薦は、土木史の委員会でやっていただくこととし、抽出の対象としなくて良い。構造工学論文集は景観に該当する分野設定がなくなっているので取り上げなくてよい。
（平野委員）委員会とは別に、D1 部門でも推薦を依頼される可能性がある。同じ論文を出すことになって問題ないか。
（天野委員長）基本的には同じとして問題ないと考える。推薦したい論文が２編あった場合などは戦略的に別の論文を推薦することも検討すればよい。
（山下委員）本委員会と D1 部門で推薦する論文が同じであって良いかどうかは、今後確認する。

【研究発表会関連（上島委員・水谷幹事より報告）】
・資料に基づき昨年度の結果及び今年度の検討状況の報告がされた。

（水谷委員）研究発表会の案内について、特に役所の方は稟議を通すのに時間がかかるため、冊子とは別にポスターなどの開催案内を早めに送付するようにしたい。
（上島委員）今年度東北大学を予定していたが震災の影響で困難となった。皆さまにご尽力いただいての調整の結果、第１回の開催校である日本大学で開催することとなった。感謝したい。また、昨年問題となった司会・コメンテーターからの参加料徴収について審議いただきたい。本小委員会からは、学会員でない方に司会・コメンテーターを依頼する場合は、参加料を徴収しないことを提案したい。またシンポジウム案についてもご意見をいただきたい。
（平野委員）防災の観点から大御所にお話しをいただくなら、金曜日の基調講演は首藤伸夫先生もいいのではないか。
（天野委員長）シンポジウムのメンバーは去年と重なりすぎているのではないか。
（佐々木幹事長）シンポジウムについては大学の先生だけでなく、コンサルタントや自治体から入っていただいた方がよい。小委員会でもう少し議論いただきたい。非学会員に司会とコメンテーターをお願いするときには、参加料を徴収しないこととする。

【デザイン賞関連（二井幹事より報告）】
・資料に基づき昨年度の結果及び今年度の検討状況の報告がされた。
・デザイン賞２０１０では、初めて具体的な場所ではなく、製品を取り上げた。
・昨年度は黒字計上をしたが、事務手続き上のミスで未払い金がある。
・今年度は応募が非常に少ない状況である。また、例年推薦と一般応募が同数程度だが、今年は一般応募がほとんどない。そのため、今年は黒字化が非常に難しいかもしれない。
・例年の協賛先へ協賛金の協力を打診したが、一ヶ所以外からは協力を得られた。
（佐々木幹事長）未払金に関しては今後の状況を見て判断したい。
（二井幹事）以前から委員会で問題になっていた学会への上納金 25%について議論をしている内に、委員会の賞として「土木学会デザイン賞」という名前はおかしい、いっそのこと学会の賞とした方がいいのではという意見が学会の事務方からあり、検討したい。
（佐々木幹事長）学会の賞にすることのメリットを考えてみたい。一委員会の賞より学会の賞の方が、田中賞などと並んで評価される可能性はある。土木学会デザイン賞を取ったことがプロポーザルの評価になるというような流れに寄与するのではないか。また、学会にとっても土木の仕事をＰＲできるものである。一方、これまで非常に労を割いて選考してきた賞のクオリティを保つためには現地調査の徹底など、選考の方法を担保しなければいけない。また、これまで授賞式とプレゼンテーションを委員会行事として行ってきたが、受賞式は他の表彰とまとめて行われてしまうことになるのはどうか、という点もある。
（二井幹事）学会の賞は応募料を取っていないので、現地調査の旅費などを確保できないのではないか。
（平野委員）事務的なハードルが非常に高いと思われる。表彰委員会が最終決定を行うスタイルになっており、委員会で決定した内容がその通りになるとは限らない。
（天野委員長）表彰委員会の実態がどうなっているかは確認が必要である。デザイン賞が委員会のものではなくなると、委員会活動の評価としては下がってしまうのは難点だが、研究発表会はしっかりと行われているので基本的には問題ないと考える。
（佐々木幹事長）議論はしてみたいと思う。実際にこれが学会の賞となった時、プロポーザルの

評価などにおいて、国土交通省の対応は変わるだろうか？
（新屋幹事）自身はあまり発注に関しては詳しくないが、何ともいえないところだと思う。
（丹羽幹事）実績として見てはもらえるが、局長表彰などとは違い、点数にはならないのが実際だと思う。
（天野委員長）この件については、あまり急がず議論したい。
（二井幹事）これ以上小委員会で議論するのは難しいので親委員会の事案としてほしい。
（佐々木幹事長）この話題が出たのはずいぶん前であり、震災以降話が変わっていることもある。親委員会として学会と直接話をしてみたい。

【フォトコンテスト（二井幹事より報告）】
・資料に基づき検討状況の報告がされた。
・生徒だけでなく学校への賞金をつけると投稿が増えるのではないか。備品が購入できず困っている学校が多いと聞いている。学校への賞金付与に了承がいただければ、早急に学校へ案内を出したい。
（佐々木幹事長）広報のための様々な努力には感謝している。デザイン賞受賞作品のマップやフォトコンテストの受賞作品を今後なにかに活かしていけないか。
（伊地知幹事）秋冬コレクションの受賞写真は８月中にアップロードできそうな状況である。
（上田幹事）小学校の終業式はかなり迫っているのでは。都内は 19 日と聞いている。
（佐々木幹事長）労力との兼ね合いだが、無理にやらなくても良いのでは。
（二井幹事）ワーキングで相談する。

【「景観研究を悩む」のお知らせ（佐々木幹事長より報告）】
・資料に基づき、「景観研究を悩む」ワークショップの開催について報告された。

【東日本大震災に関する委員会としての対応について（佐々木幹事長より発案）】
・資料に基づき小委員会の立ち上げについての提案がされた。
（屋代委員）復興だけがテーマか、まだ震災が起きていない地域も対象にするか。
（佐々木幹事長）四国地方の津波の可能性がある地域で、人工地盤を作るという話を聞いたこともあるので、被災地以外も対象として良いと思う。
（佐々木幹事長）委員会には国土交通省のメンバーも委員として入っているので、連携が図れる点は図りたい。
（平野委員）風景に関わる大きな方向性はここ１～２ヶ月で決まってくると思う。３次補正予算を目指して各地域が復興計画を描いている。自分が関わっているのは主に南三陸町と石巻市である。
（天野委員長）この委員会では拙速にやるより、それから後のまちづくりについて情報収集していった方がいいのではないか。構想としては決められる部分もあるかもしれないが、具体的な事業までは時間がかかるとも思われる。しっかり準備をすることが大事。
（二井幹事）大槌町で関わっているが、防災が第一か、まちのあり方が第一かという議論をしている。「まちが残っていくためには、どういうまちにしなくてはいけないか」という議論ができて

いないところは危険だと思う。大槌は週２回くらいで議論をしている。
（佐々木幹事長）さまざまな状況があるとおもわれるので、参考になる情報を学会から提示することなども考えられるのではないか。
（新屋幹事）それぞれの市町村の意向もあると思う。長期的な視点で学会で考えてもらうことには意味があると考える。
（平野委員）都市計画学会では土木学会と連携の委員会で、パターン検討業務に入っている学識経験者を集めて情報交換をしようという話をしている。
（佐々木幹事長）直接的な成果を求めるというよりも、この委員会で議論することに意味がある。
（天野委員）委員会として何かを提示するには、どこかの段階で取りまとめる必要があるが、まずは情報収集が必要ではないか。
（佐々木幹事長）みな忙しい中ではあるが、状況を知っている人から情報提供いただきながら議論を深めたい。ご協力いただきたい。

**４　会計関連・土木学会による委員会活動評価について**

【会計報告（沖田幹事）】
・資料に基づき H22 会計報告及び H23 予算計画が報告された。
・土木学会論文集 D1 部門の選考にかかる旅費を確保する必要がある。
・今年度の調査研究拡充支援金がまだ定まっていない。
（佐々木幹事長）予算が確定した段階で改めて案を諮ること。

【土木学会による委員会活動評価について（上田幹事）】
・資料に基づき委員会活動評価について報告された。
・行事収益が多かったため、平成 22 年度の活動評価は A ランクとなった。
（佐々木幹事長）今後もご協力いただきたい。小委員会などを開いた場合は人数を確認し記録しておくこと。また、各委員が関わる行事には、共催・後援として積極的に委員会を使っていただきたい。
（上田幹事）共催・後援などを行った場合は、概要と登壇者数、参加者数をご報告いただきたい。

**5　意見交換**

（佐々木幹事長）論文集をＷＥＢにアップできたのは去年の活動の大きな成果だった。また、今後は「景観研究を悩む」のような学会としての議論の場をコツコツ持っていきたい。委員におかれても、作品を見に行ったり、デザイナーを呼んで講演会など、学会の活動としてやった方がよいような企画があればどんどん使ってほしい。
（宮脇委員）本委員会活動に関わってみて、研究発表会はいい場だと思った。他の学会ではこのような報告の場はない。都市計画や建築では実作を発表することはないので羨ましい。景観は横断の分野なので難しいことも多いと思う。
（佐々木幹事長）全分野が集まるのは理想だが、そうもいかないので、重なり合う領域について情報を持ち寄っていきたい。都市計画系での景観の議論もお知らせいただきたい。
（天野委員長）若い幹事の方からも「こんなことやろう」と出してほしい。勝手に人を集めてワーキングしていってほしい。忙しい人が多いので難しいが、幹事会が雑用ばかりでない活動をで

きることが望ましい。
（佐々木幹事長）今年はもっと幹事会を開きたい。今回で任期満了となる方からコメントをいただきたい。
（丹羽幹事）今回でお役御免となった。お世話になりました。関西は盛り上がりに欠ける面もある。関西での集まりも盛り上げていきたい。
（二井幹事）大学に勤めてから４年、ずっと幹事を務めさせていただいたので、離れるのは寂しいような気もする。お世話になりました。

以　上